

【平成 31 年 1 月】

地域を支える仕組みづくり

地域のお宝発表会が大崎市を会場に開催されました

平成 31 年 1 月 25 日（金曜日）午後 1 時からパレットおおさきにて、宮城県主催（実施機関：特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター）で「地域のお宝をみんなのものに～お宝でつながろう～」が開催されました。

今回のお宝発表では、大崎市から生活支援体制整備事業を実施している 4 団体（鳴子・清滝・高倉・池月）のコーディネーターが発表しました。コーディネーターが日々の活動で知った地域のお宝の中には、「田植え踊り」という伝統を継承すると同時に世代間交流を行い、子どもと交流することで下校途中に会った際に声掛けをしやすくなり「見守り」になっているという発表や、有償ボランティアを地域内で行い、お互いに支え合いながら生活しているという発表がありました。また、地域との交流を通じて「移住」に結びついた発表もあり、会場は盛り上がりました。

アンケートには「高齢化が進む中でもお互いに支え合うことの大切さに気づいた」「既に地域では支え合いの活動が多く行われていることに気づいた」という感想がありました。

地域包括ケア推進室で新潟県新潟市「実家の茶の間」の視察を行いました

平成 31 年 1 月 28 日（月曜日）民生部社会福祉課地域包括ケア推進室で新潟県新潟市「実家の茶の間」へ視察を行いました。「実家の茶の間」とは、子どもからお年寄りまで、市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちの実現を目指し、支え合いの仕組みづくりをすすめるための拠点として設置されており、毎週月曜日と水曜日に参加費 300 円とは別途に 300 円支払うことで昼食も提供され、午前 10 時から午後 4 時まで自由に過ごすことができる場になっております。

当日訪れたときには、約 25 人の地域住民の方が集まっており、自由におしゃべりをして過ごしていました。実家の茶の間には「その場にはいない人の話をしない」「プライバシーを聞き出さない」など独自のルールを設けており、お互いにルールは守る姿勢も見られました。

大崎市でも、生活支援体制整備事業を実施して配置されているコーディネーターを共に住民主体の助け合いや居場所づくりについて推進していきます。

【東区】
実家の茶の間・紫竹
任意団体「実家の茶の間」と新潟市が協働で立ち上げた
最新型地域包括ケア推進モデルハウス
新潟市の地域包括ケアシステム構築の基

地域のお宝になるように

- 実家の茶の間・紫竹は、空き家を活用した、生活支援の場づくりをしています。
- あたたかく、無条件で迎え入れられ、お互いに話を聴いてもらったり、心も体もゆとり体感とこと、人のあたたかさを伝えているところです。
- 業を継ぐこととして、困ったら助け合い、助けられたいところでもあります。

参加のようす

サービスの受け手は1人もいない!!

お宝づくり
プログラム中

みんなの決まりごと
どなたが来られても「あの入籍？」という目もしない。プライバシーを聞き出さない。その場にはいない人の話をしない。みんなルールを守ることで、誰を隠さない距離感が保たれ、安心して過ごすことができます。

どなたが来られても「あの入籍？」という目もしない。プライバシーを聞き出さない。その場にはいない人の話をしない。みんなルールを守ることで、誰を隠さない距離感が保たれ、安心して過ごすことができます。

子どもからお年寄りまで、様々な年代の方がお集まりになります。それぞれ得意なことが違いますので、特にプログラムは用意せず、その人その人に向って過ごして過ごしています。

参加券が助け合いのチケットに

助け合いのきっかけに

助け合いのツール「実家の茶の間」
- 実家の茶の間・紫竹の参加券は枚数限り 1,500 円
- おおさきにもしてもらったとまのお礼としても使えます。

地域支援コーディネーター意見交換会第 6 回目を開催しました

平成 31 年 1 月 29 日（火曜日）午後 1 時 30 分から大崎市役所北会議室 2 階にて「平成 30 年度第 6 回地域支援コーディネーター意見交換会」を開催しました。

今回は各地域のコーディネーターがこれまで情報収集してきた地域にあるさまざまな資源について、「見守り・話し相手」「交流（サロン）」「会食」「家事手伝い」「移動・買い物支援」「配食支援」に分けて意味づけを行い、どのような資源効果があるのかを整理しました。

1 つの資源に複数の効果があることや、地域に足りない資源についてそれぞれの地域の特色が見えてきました。今後、整理した資源を基にどのように資源を磨いてさらなる効果を目指すかについて計画を立てていきます。

地域の資源にどのような効果があるのかを整理しました



医療と介護の連携

大崎市医師会主催の医学講座 7 回目が開催されました

平成 31 年 1 月 15 日（火曜日）午後 6 時 30 分から大崎市図書館にて大崎市医師会主催による「今だから学びたい介護事業所向け医学講座」の第 7 回目が開催され、市内の介護事業所に勤めるケアマネジャーや介護士等 57 人が参加しました。今回は近江医院院長 近江徹廣氏が講師になり、「誤嚥性肺炎とその他感染症」についての講義が行われました。

参加者からは「感染症は一番身近な問題であり、気を付けていきたいと思った」「日常気をつけなければならないことが理解できた」等の感想が多く聞かれました。

次回（最終回）：平成 31 年 2 月 19 日（火曜日）午後 6 時 30 分～

場所：大崎市図書館 2 階会議室

講師：大崎市在宅医療・介護連携支援センター長 深沼榮子氏

テーマ：医学的な配慮が必要な利用者に対するケア（まとめ）

ふらっといしかいサロンがオープンしました

平成 31 年 1 月 18 日（金曜日）午後 5 時 30 分から大崎市図書館多目的ホールにて「ふらっといしかいサロン」をオープンし、悪天候の中で約 25 人の来所がありました。

このサロンは、地域の方々が病気や健康管理のことについて「ちょっと聞いてみたいこと」を医師や看護師等に気軽に相談できる場になっています。午後 7 時からの医師によるミニ講座では、すすき脳神経外科クリニック院長 鈴木豪氏による「あたまのはなし」が行われました。

会場には大崎市医師会、大崎歯科医師会、大崎薬剤師会、宮城県理学療法士会、宮城県作業療法士会、宮城県言語聴覚士会、大崎栄養士会、行政（宮城県北部保健福祉事務所、大崎市）からの医療介護資源情報コーナーや、ミニ図書館もあります。

次回：平成 31 年 2 月 15 日（金曜日）午後 5 時 30 分～※ミニ講座は午後 7 時からになります。

場所：大崎市図書館多目的ホール

担当：みやざき内科クリニック院長 宮崎泰輔氏

テーマ：胸のお話

訪問看護ステーション管理者懇談会が開催されました

平成 31 年 1 月 30 日（水曜日）午後 6 時から大崎市医師会にて「大崎市内訪問看護ステーション管理者懇談会」が開催されました。

今回は、14 名の市内の訪問看護ステーション管理者と在宅医療介護連携支援センターの職員が集まり、民生部社会福祉課障害福祉係から「医療的ケア児を支援する事業」について情報提供がありました。その後、公益社団法人 宮城県看護協会訪問看護推進部訪問看護事業経理課長 斉藤敏弘氏を講師にお招きし、「所長としての訪問看護ステーション事業の経理管理を学ぶ」というテーマで講演を頂きました。講演の中で、経営実践していくためには、分析をして目的や目標を部下と共有して進めていくことの重要性について話がありました。